
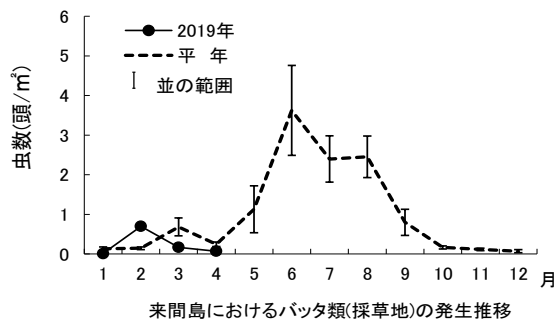
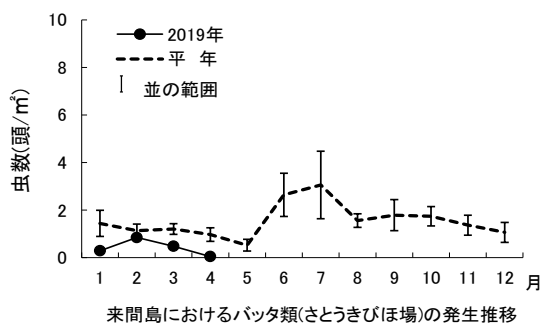


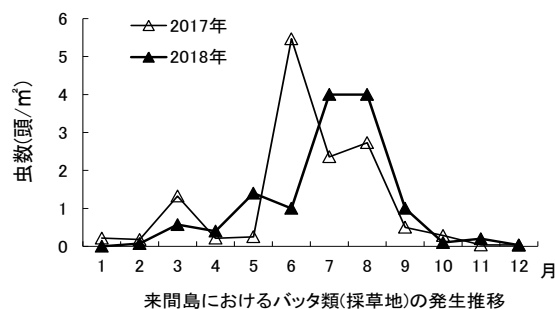
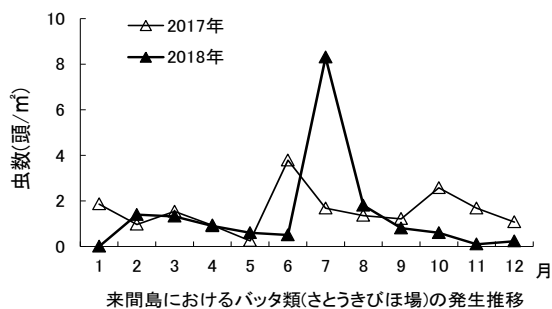
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
予報	5 月の発生量 (平年比)	少	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	少	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



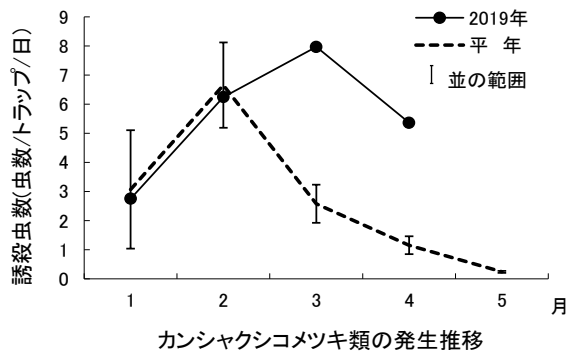
防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・ 幼虫期の防除が効果的なので、5～6月にほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

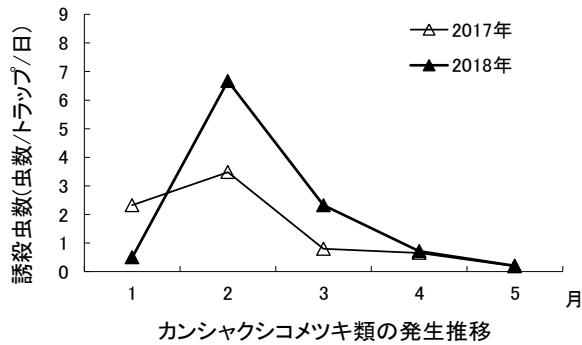
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① カンシャクシコメツキ類		
予報	5 月の発生量 (平年比)	多	
	4 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)	トラップ誘殺虫数が平年より多い 平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移



防除のポイント

- ・ 成虫は2月上旬～3月上旬頃から地上に出てくる。
- ・ 発生が多い地域では連作を避ける。
- ・ 植付前に植溝に粒剤を施用する。



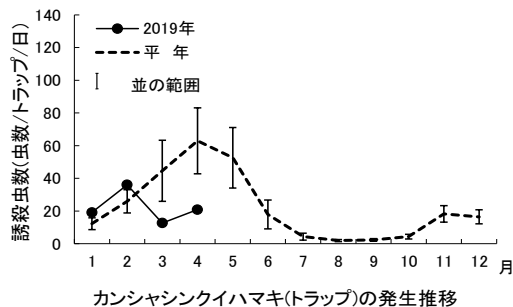
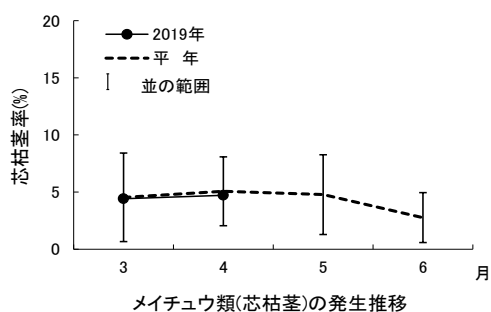
カンシャクシコメツキ類(成虫)

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

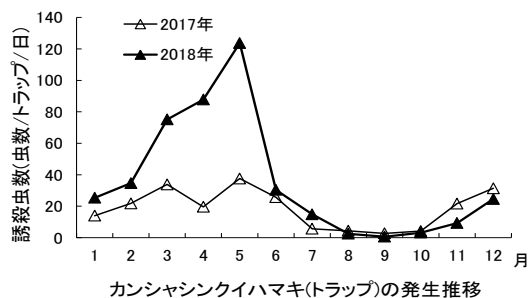
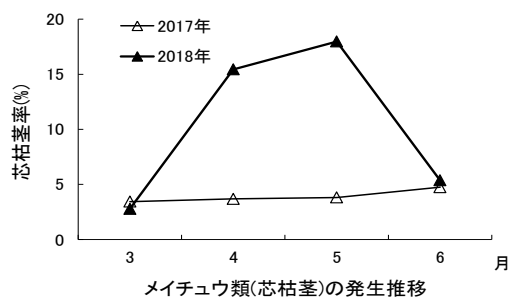


調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



・茎内で発見したメイチュウ類の87.9%がカンシャシクイハマキであった。

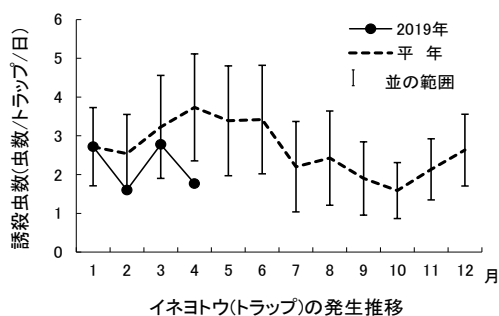
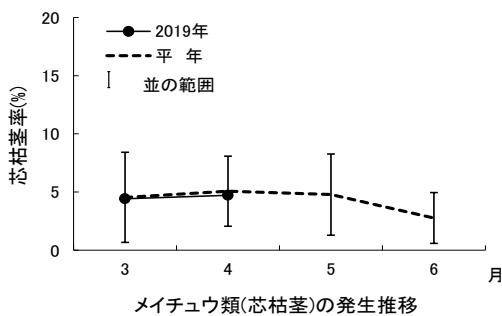
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

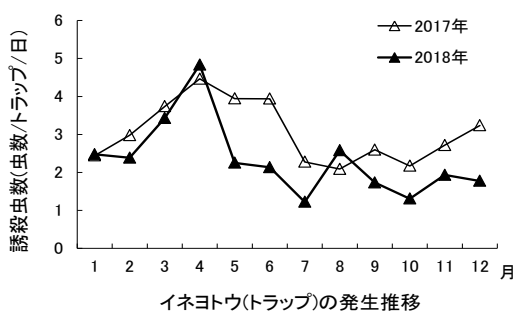
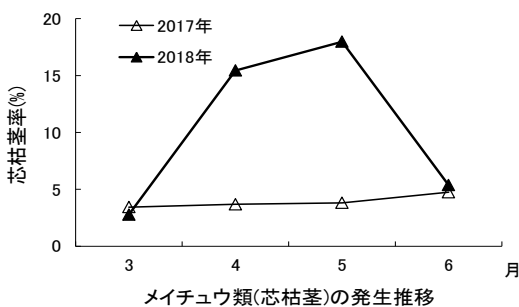
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	③ メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類の12.1%がイネヨトウであった。

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。